

①現状(航空写真)

岩美海岸(陸上地区) 9

R7年6月4日撮影



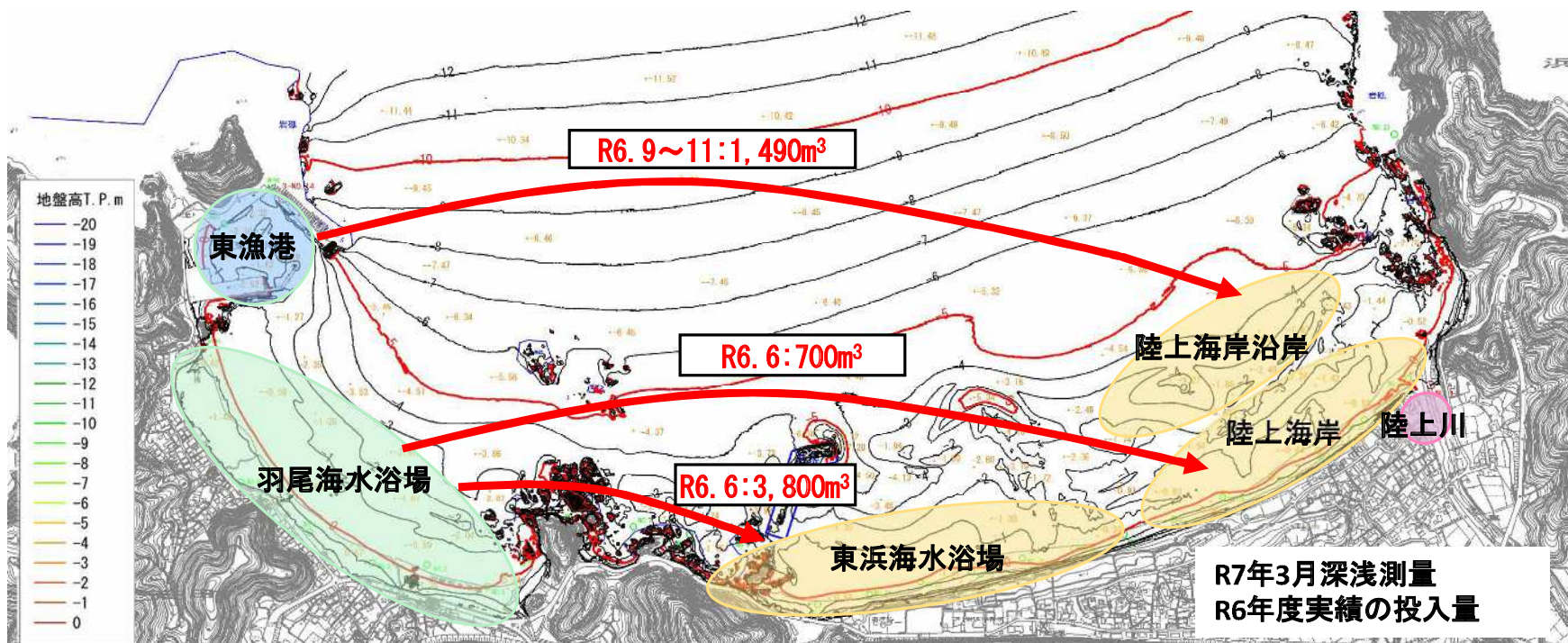
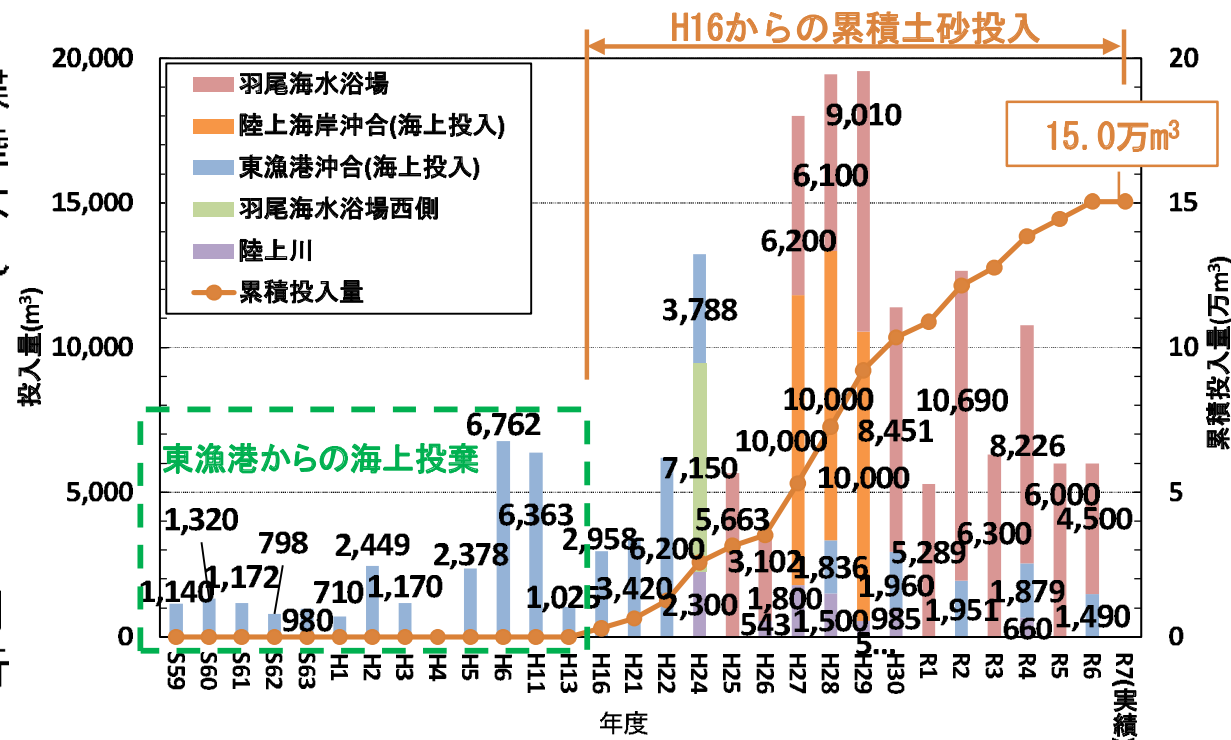
②現状(サンドリサイクル実績)

岩美海岸(陸上地区) 10

- 羽尾海水浴場に堆積した土砂を浚渫し、東浜海水浴場及び陸上海岸に陸上養浜しており、R6(2024)年度は概ね海水浴シーズンまでに実施された。例年に比べ養浜量は少ない。

R2(2020) 年度	R3(2021) 年度	R4(2022) 年度	R5(2023) 年度	R6(2024) 年度
10,690m ³	6,300m ³	8,226m ³	6,000m ³	4,500m ³

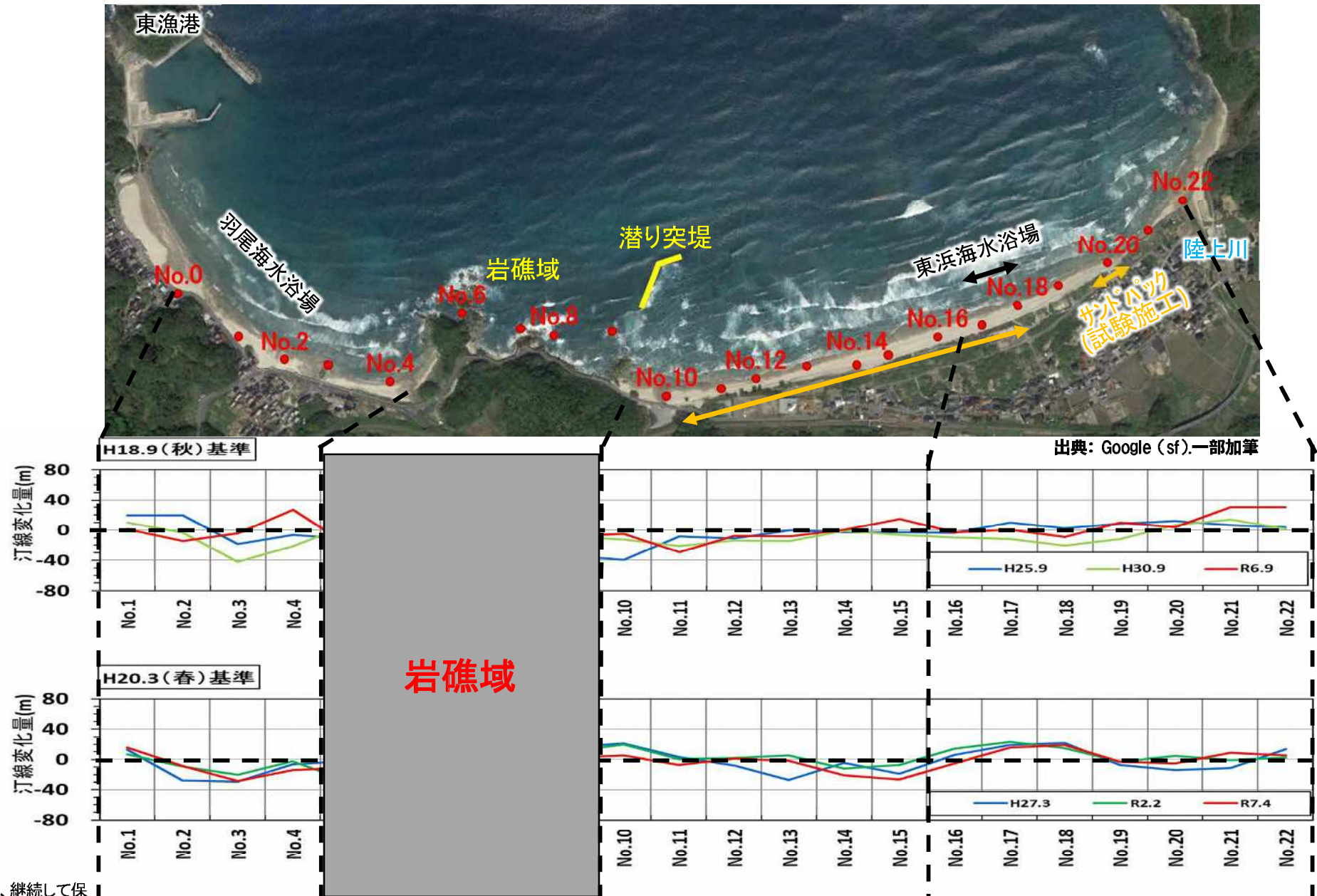
- H16(2004)年度からR7(2025)年7月までに累積約15.0万m³の土砂投入が行われた。



※投入実績はR7年7月現在

③現状(長期的な汀線変化)

長期的な汀線変化: 汀線は、概ね基準年の汀線付近で変動している。



※測量基準年は、継続して保有している測量データの最も古いデータを設定(季節毎)

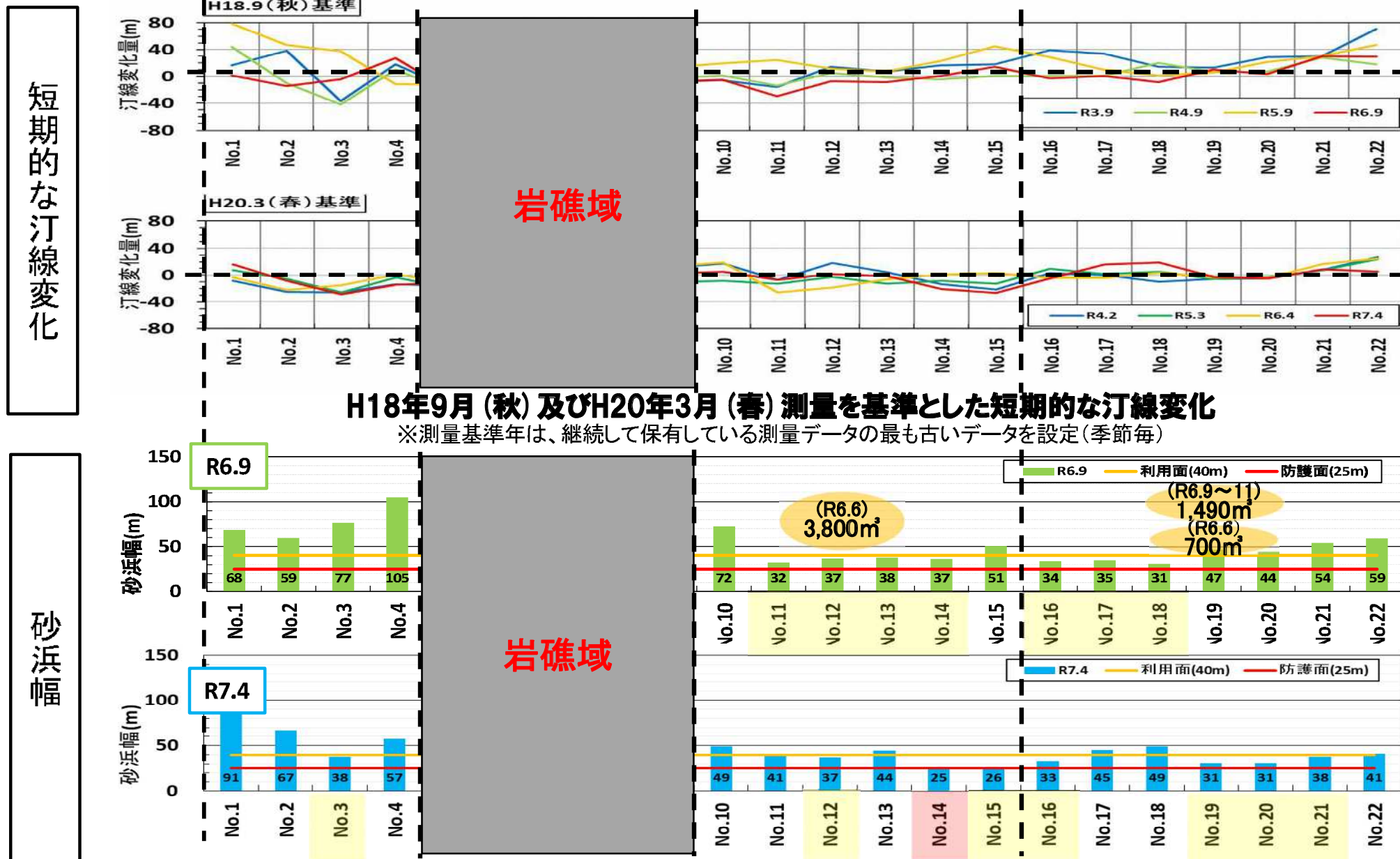
H18年9月(秋)及びH20年3月(春)測量を基準とした長期的な汀線変化

④現状(短期的な汀線変化・砂浜幅)

岩美海岸(陸上地区) 12

短期的な汀線変化：秋季では R5.9からR6.9にかけて、羽尾海水浴場(No.1~3)、東浜海水浴場(No.10~18)で汀線が後退している。春季ではR6.4からR7.4にかけて、No.17、18で局所的に汀線が前進している。

砂浜幅(R7春)：冬季風浪の影響により、No.14で防護面の目安浜幅(25m)を下回っている。



※測点は100mピッチ

R6年9月及びR7年4月測量時の砂浜幅

赤色ハッチ: 防護面の目標浜幅25m以下
 黄色ハッチ: 利用面の目標浜幅40m以下

⑤土砂変化分析(中期)

岩美海岸(陸上地区) 13

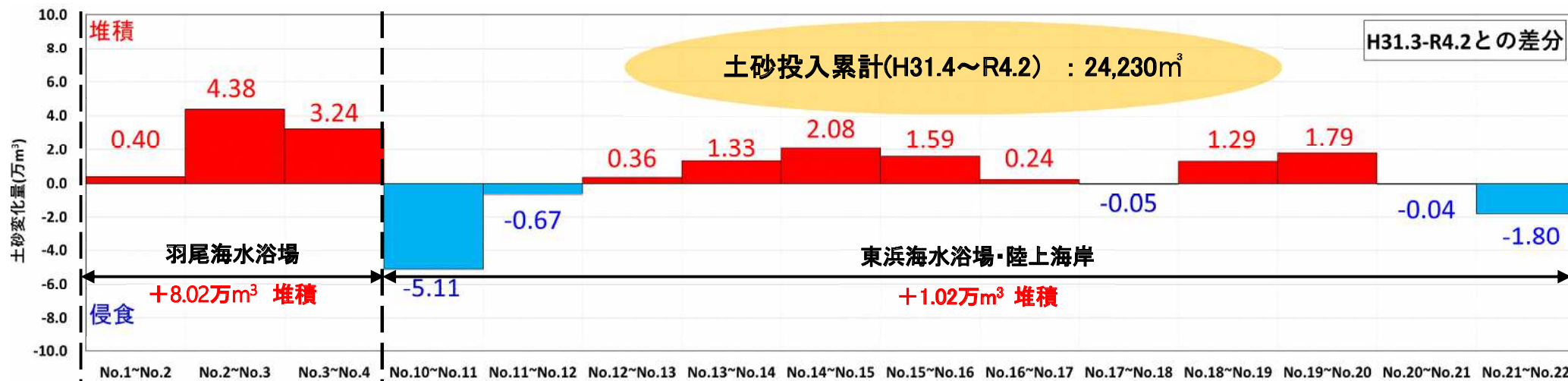
【H31. 3とR4. 2土砂量比較】

○海岸全体として、約9万m³の堆積傾向にあることが算定された。

【R4. 2～7. 4土砂量比較】

○海岸全体として、約13万m³の堆積傾向にあることが算定された。

○東浜海水浴場・陸上海岸の中央付近(No. 14～16)では若干の侵食傾向にある。



H31年3月とR4年2月の土砂量比較

※測量基準点～TP.-10mまでの土砂量を算出(移動限界水深(TP.-10m))



R4年2月とR7年4月の土砂量比較

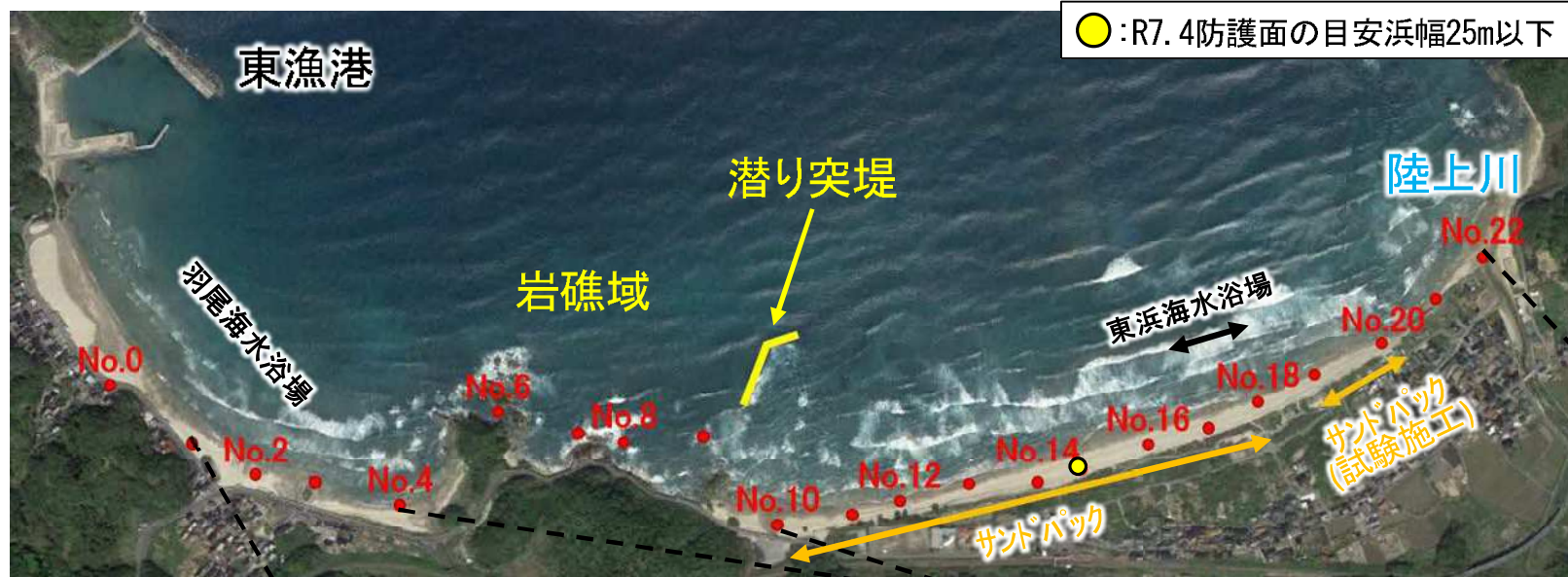
※測量基準点～TP.-10mまでの土砂量を算出(移動限界水深(TP.-10m))

※100m間隔の測線におけるシングルビーム法による測量結果をもとに平均断面法で土砂量を算出

⑥課題と対応方針

【対応方針(案)】

- 現地では大きな浜崖の発生も確認されることから、引き続き東側への浜崖対策(サンドバック)を継続する。
- 概ね基準年の汀線を維持しているが、防護面、利用面の目安浜幅が確保できていない箇所があることから、引き続きサンドリサイクルとモニタリングを継続実施する。



出典: Google (sf).
一部加筆

	羽尾海水浴場	東浜海水浴場
施設整備状況	東漁港防波堤:H12(2000年)	潜り突堤:H17(2005年).11、サンドバック:H29(2017)～
対策実施状況	羽尾海水浴場からの土砂採取	土砂投入
利用状況	海水浴場(非開設)	海水浴場(No.16～No.18付近)
長期的な地形変化(H18、20～R6、7)	サンドリサイクルやサンドバック等の実施により、秋季、春季ともに、汀線は基準年の汀線付近で変動しており、基準年の汀線位置を概ね維持している。	
短期的な地形変化(R3、4～R6、7)	R5.9に全体的に前進していた汀線がR6.9にかけて後退したが、秋季、春季ともに基準年の汀線付近で変動しており、基準年の汀線位置を概ね維持している。	
砂浜幅(R7.4)	防護面の目安浜幅(25m)を確保 利用面の目安浜幅(40m)を下回る箇所がある。(4箇所中1箇所)	防護面の目安浜幅(25m)を下回る箇所がある。(13箇所中1箇所) 利用面の目安浜幅(40m)を下回る箇所がある。(13箇所中7箇所)
問題点・課題	東漁港、羽尾海水浴場への土砂堆積	冬季風浪後の浜崖発生
今後の対応方針(案)	・現地では大きな浜崖の発生も確認されることから、引き続き東側への浜崖対策(サンドバック)を継続する。 ・概ね基準年の汀線を維持しているが、防護面、利用面の目安浜幅が確保できていない箇所があることから、引き続きサンドリサイクルとモニタリングを実施する。	

①現状(航空写真)

岩美海岸(浦富地区) 15

R7年6月4日撮影



②現状(サンドリサイクル実績)

岩美海岸(浦富地区) 16

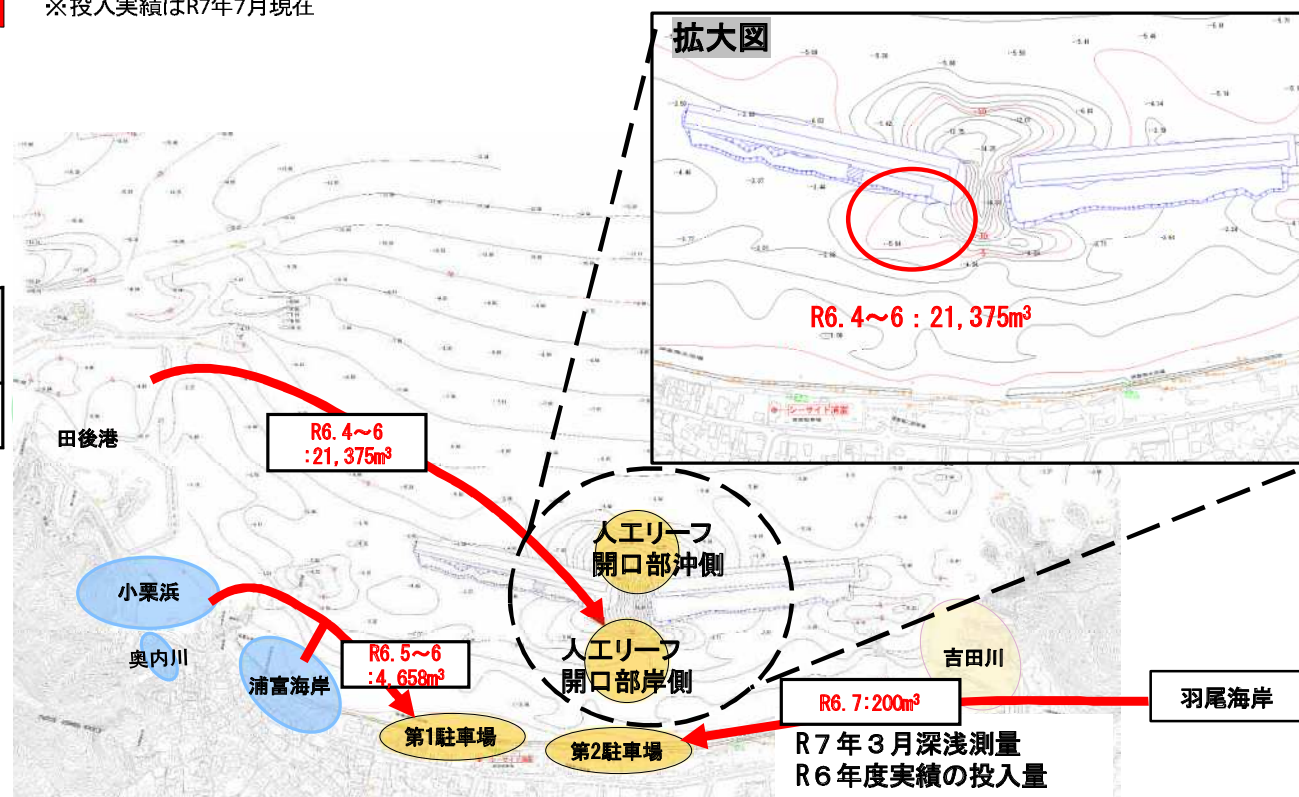
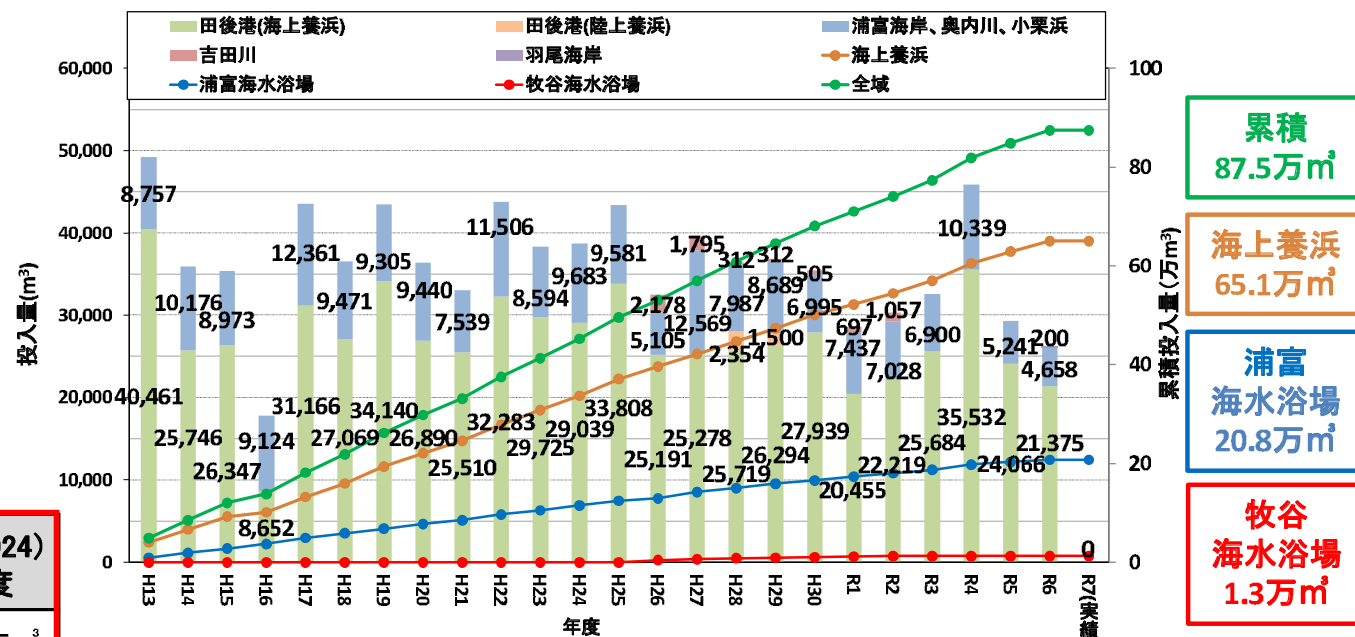
- 浦富地区ではH13(2001)年度から人工リーフ開口部沖側、浦富海水浴場及び牧谷海水浴場へ継続的に陸上養浜が行われてきた。
- R6(2024)年度では人工リーフ開口部岸側への海上養浜が行われた。近年の海上養浜量は、下記のとおりである。

沖側投入			岸側投入	
R2(2020)年度	R3(2021)年度	R4(2022)年度	R5(2023)年度	R6(2024)年度
22,219m ³	25,684m ³	35,532m ³	24,066m ³	21,375m ³

- 浦富海水浴場への陸上養浜量は、これまで同程度の量が継続的に投入されてきており、R6(2024)年度についてもR5(2023)年度と同程度なみである。

R2(2020)年度	R3(2021)年度	R4(2022)年度	R5(2023)年度	R6(2024)年度
7,028m ³	6,900m ³	10,339m ³	5,241m ³	4,658m ³

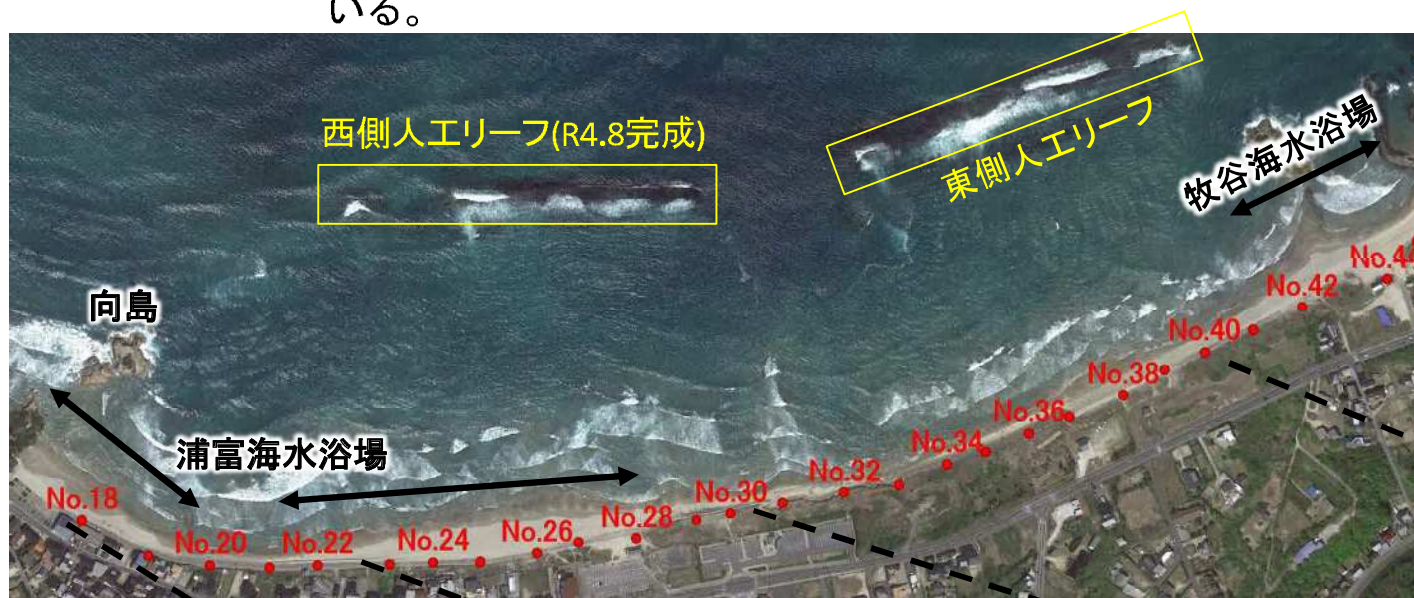
- H13(2001)年度からR7(2025)年7月までに、累計87.5万m³の土砂投入が行われている。
- R6(2023)年7月には人工リーフ開口部の背後地へ緊急的に養浜するため、陸上海岸の土砂が利用された。



③現状(長期的な汀線変化)

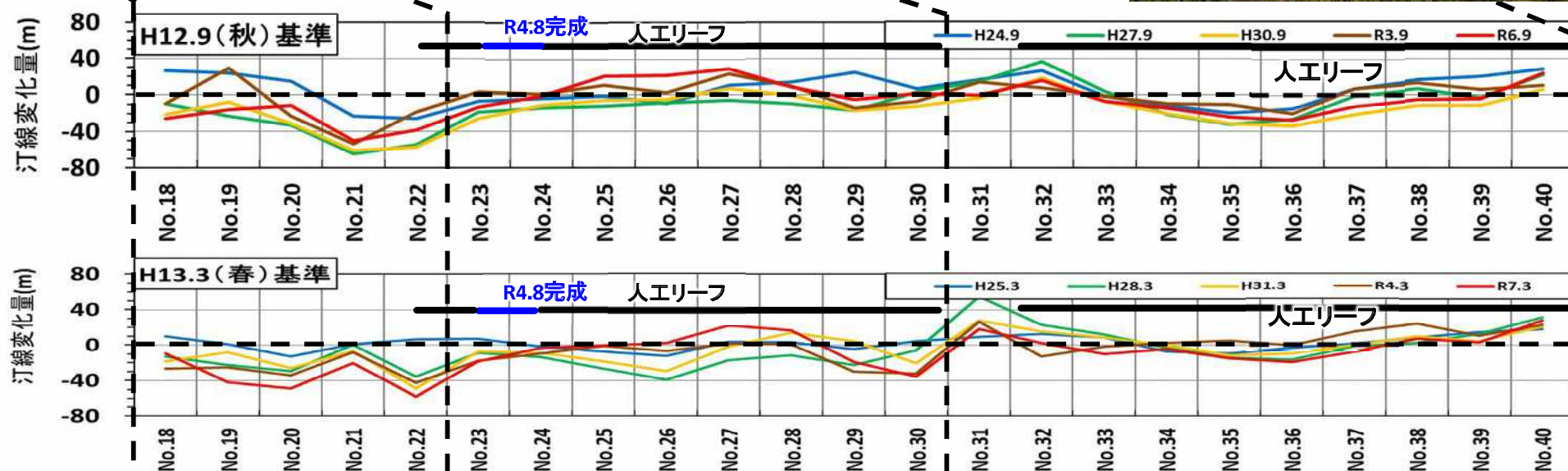
岩美海岸(浦富地区) 17

長期的な汀線変化 : R6.9(秋季)、R7.3(春季)では、西側人工リーフの背後(No. 25~27)において基準年の汀線から前進している。一方、西側人工リーフの西側(No. 18~22)や東側人工リーフの背後(No. 35~37)では後退している。



出典: Google (sf).一部加筆

長期的な汀線変化



H12年9月及びH13年3月測量を基準とした長期的な汀線変化

※サンドリサイクル事業はH18から実施

※測量基準年は、継続して保有している測量データの最も古いデータを設定(季節毎)

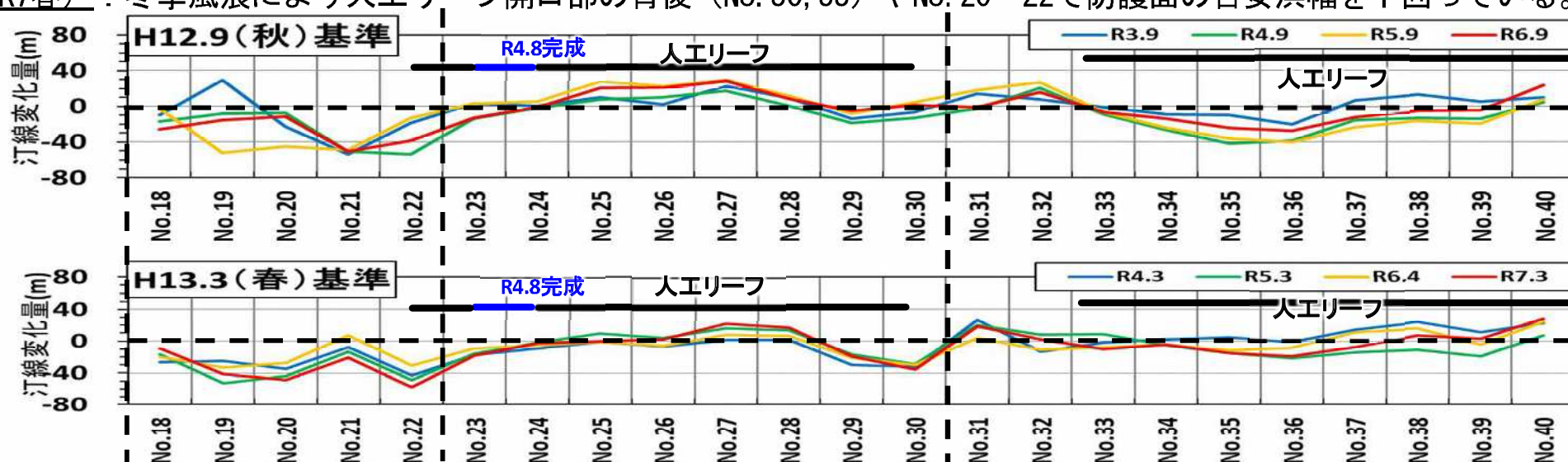
④現状(短期的な汀線変化・砂浜幅)

岩美海岸(浦富地区)¹⁸

短期的な汀線変化: 秋季においては、西側人工リーフ背後の中央付近(No. 25~27)でR4.9からR5.9にかけて汀線が前進している。一方、人工リーフ未設置区間(No. 18~22)および東側人工リーフ背後(No. 33~37)では、基準年の汀線よりも後退側で前進、後退を繰り返している。春季は、秋季に比べて経年的な汀線変化は小さい。

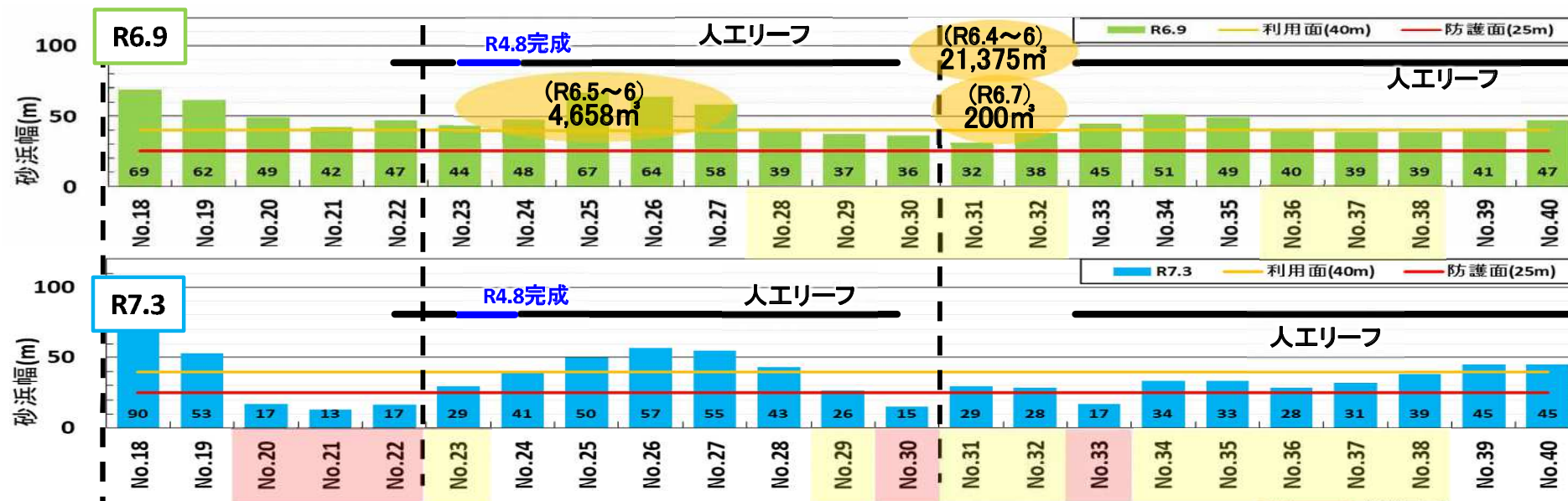
砂浜幅 (R7春): 冬季風浪により人工リーフ開口部の背後(No. 30, 33)やNo. 20~22で防護面の目安浜幅を下回っている。

短期的な汀線変化



H12年9月及びH13年3月測量を基準とした短期的な汀線変化
※測量基準年は、継続して保有している測量データの最も古いデータを設定(季節毎)

砂浜幅



※測点は100mピッチ

R6年9月及びR7年3月測量時の砂浜幅

赤色ハッチ: 防護面の目標浜幅25m以下
黄色ハッチ: 利用面の目標浜幅40m以下

⑤土砂変化分析(中期)

岩美海岸(浦富地区) 19

【H31.3とR4.3 土砂量比較】

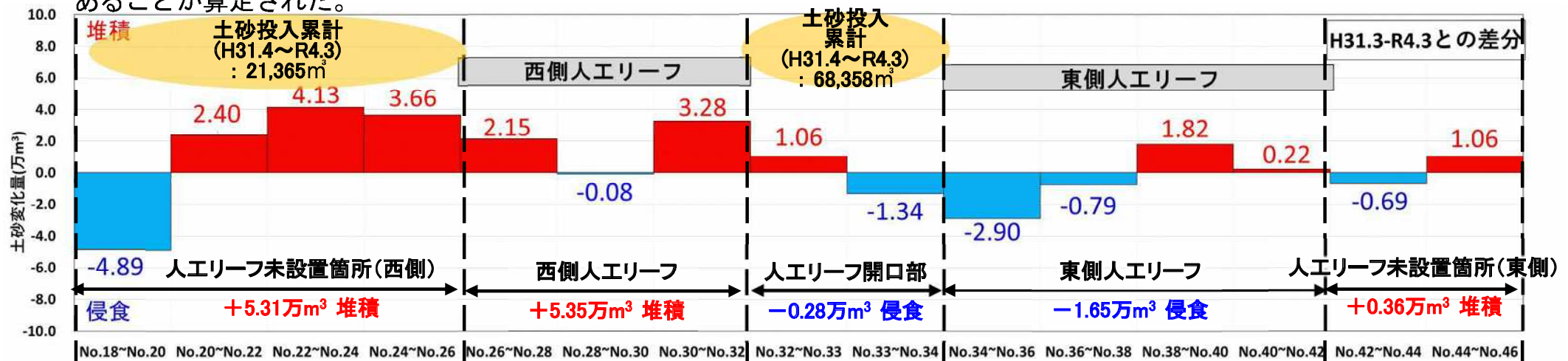
○海岸全体として、約9万m³の堆積傾向であることが算定された。

○人工リーフ未設置箇所(西側)の西側端部や東側人工リーフ背後において、侵食傾向であることが算定された。

【R4.3とR7.3土砂量比較】

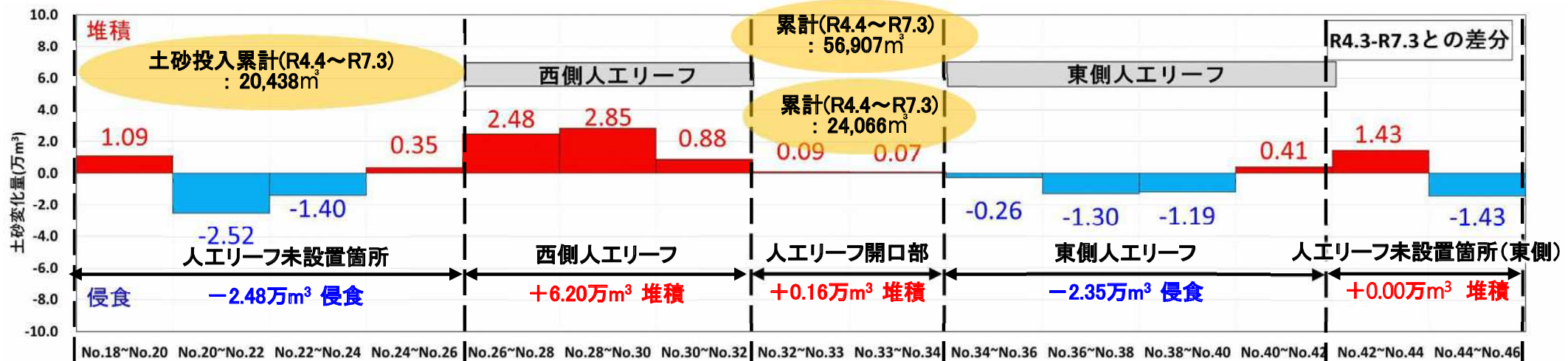
○海岸全体として、約1.5万m³の堆積傾向であることが算定された。

○人工リーフ未設置箇所(西側)の中央付近や東側人工リーフ背後および人工リーフ未設置箇所(東側)の東側端部にて侵食傾向であることが算定された。



H31年3月とR4年3月の土砂量比較

※測量基準点~TP.-10mまでの土砂量を算出(移動限界水深(TP.-10m))



R4年3月とR7年3月の土砂量比較

※測量基準点~TP.-10mまでの土砂量を算出(移動限界水深(TP.-10m))

※100m間隔の測線におけるシングルビーム法による測量結果をもとに平均断面法で土砂量を算出

⑥課題と対応方針

岩美海岸(浦富地区) 20

【対応方針(案)】

- R4年8月に人工リーフが完成し一定の期間が経過したことから、人工リーフ整備による効果検証を行う。
- 西側人工リーフの西側(No. 20～22)や人工リーフ開口部背後(No. 30、33)で防護面の浜幅が不足していることから、今後も関係機関と連携してサンドリサイクルとモニタリングを実施する。また、必要に応じて緊急的な養浜を行う。

●:R7.3防護面の目標浜幅25m以下



出典: Google (sf).一部加筆

	浦富海水浴場		牧谷海水浴場
施設整備状況	人工リーフ		
対策実施状況	土砂投入		
利用状況	海水浴場		
長期的な地形変化(H12、13～R6、7)	西側人工リーフの背後では汀線の前進が見られる。一方、西側人工リーフの西側や東側人工リーフの背後では汀線の後退が見られる。		
短期的な地形変化(R3、4～R6、7)	西側人工リーフ背後の中央付近ではR4.9からR5.9にかけて汀線が前進している。人工リーフ未設置区間および東側人工リーフ背後では、基準年の汀線よりも後退側で前進、後退を繰り返している。		
砂浜幅(R7.3)	防護面の目安浜幅(25m)を下回る箇所がある。(13箇所中4箇所) 利用面の目安浜幅(40m)を下回る箇所がある。(13箇所中6箇所)	防護面の目安浜幅(25m)を下回る箇所がある。(10箇所中1箇所) 利用面の目安浜幅(40m)を下回る箇所がある。(10箇所中8箇所)	
問題点・課題	局所的な浜崖への対応、人工リーフ開口部の局所的な侵食、東側人工リーフ背後(No.34～38)で土砂量の減少傾向が継続		
今後の対応方針(案)	・R4年8月に人工リーフが完成し一定の期間が経過したことから、人工リーフ整備による効果検証を行う。 ・西側人工リーフの西側(No. 20～22)や人工リーフ開口部背後(No. 30、33)で防護面の浜幅が不足していることから、今後も関係機関と連携してサンドリサイクルとモニタリングを実施する。また、必要に応じて緊急的な養浜を行う。		

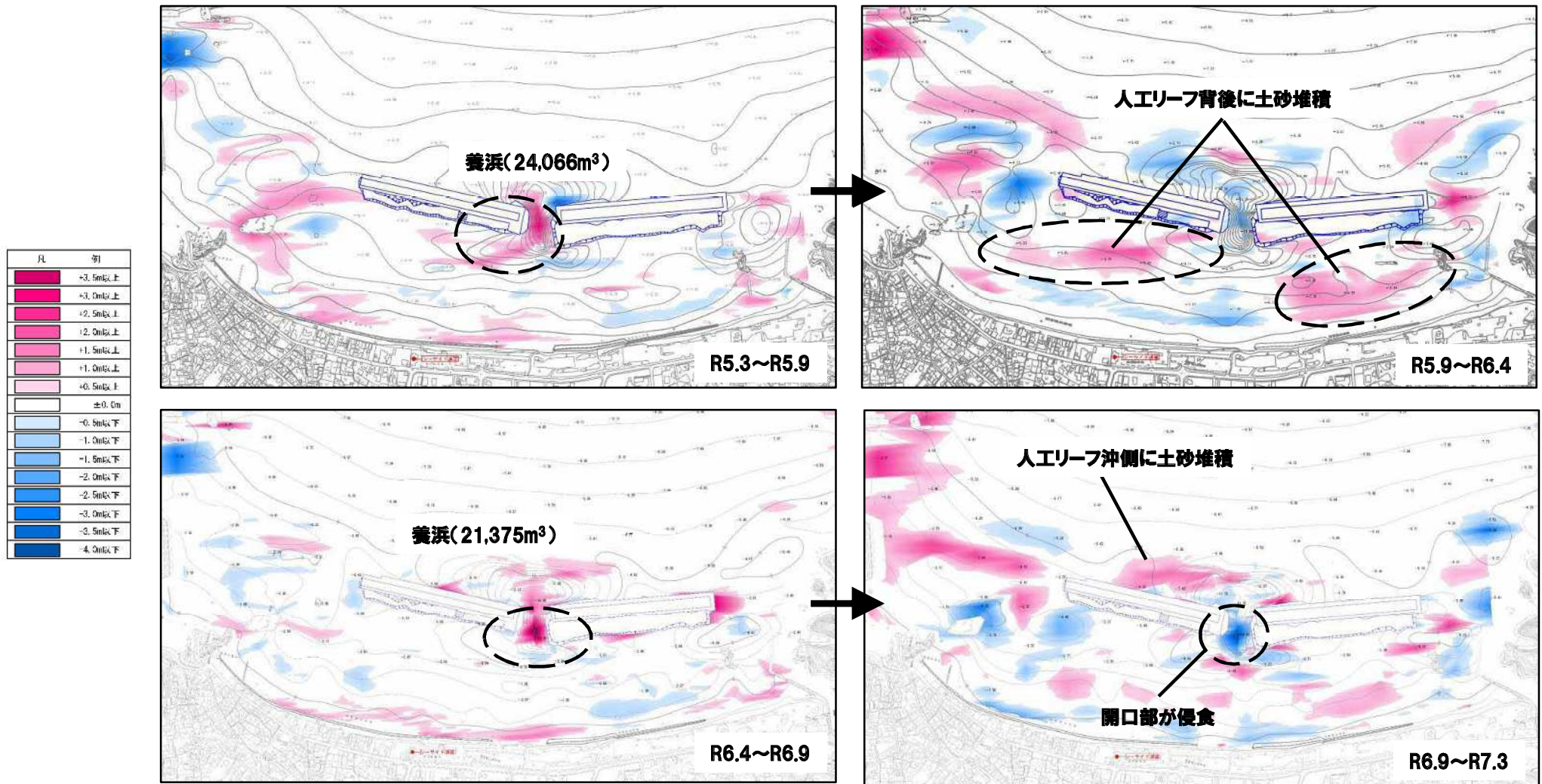
【参考】養浜位置変更による効果検証(人工リーフ開口部) 岩美海岸(浦富地区)²¹

【R5.3～R6.4：養浜位置（人工リーフ開口部岸側）】

OR5.4～R5.6に人工リーフ開口部岸側へ養浜(24,066m³)。人工リーフ東側及び西側の汀線付近に土砂堆積が見られる。人工リーフ岸側への堆積により、汀線の前進や波浪減衰効果が更に見込まれることから、開口部岸側への養浜が望まれる。

【R6.4～R7.3：養浜位置（人工リーフ開口部岸側）】

OR6.4～R6.6に人工リーフ開口部岸側へ養浜(21,375 m³)。西側人工リーフの沖側に土砂堆積が見られる。R5.3～R6.4のような目立った人工リーフ岸側への堆積は見られない。



差高図(経年比較(R5.3～R7.3))